

## 令和7年玄海町議会定例会3月会議会議録

招 集 年 月 日	令和7年1月6日（月曜日）					
招 集 場 所	玄 海 町 議 会 議 場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開 議	令和7年3月13日午前9時00分			議 長	井 上 正 旦 君
	散 会	令和7年3月13日午前9時48分			議 長	井 上 正 旦 君
応（不応）招議 員及び出席並び に欠席議員  ○ 出 席 × 欠 席 × 不応招 出 席 10名 欠 席 0名	議席 番号	氏 名	出 席 等 的 別	議席 番号	氏 名	出 席 等 的 別
	1	谷 丸 直 司 君	○	2	松 本 栄 一 君	○
	3	前 川 和 民 君	○	4	小 山 善 照 君	○
	5	山 口 寛 敏 君	○	6	宮 崎 吉 輝 君	○
	7	池 田 道 夫 君	○	8	上 田 利 治 君	○
	9	岩 下 孝 嗣 君	○	10	井 上 正 旦 君	○
会議録署名議員	4 番	小 山 善 照 君		3 番	前 川 和 民 君	
地方自治法第 121条第1項に より説明のため 出席した者の職 氏名	町 長	脇 山 伸 太 郎 君		副 町 長	西 立 也 君	
	教 育 長	岩 崎 一 男 君		総 務 課 長	渡 辺 晴 彦 君	
	防災安全課長	日 高 大 助 君		企 画 商 工 課 長	熊 本 秀 樹 君	
	住民課長兼会計管理者	中 山 昌 直 君		福 祉 ・ 介 護 課 長	中 山 ふ み 君	
	こども・ほけん課長	黒 田 佐 織 君		農 林 水 産 課 長	鶴 田 豊 明 君	
	まちづくり課長	鈴 木 博 之 君		生 活 環 境 課 長	山 口 三 成 君	
職務のために議 場に参加した者 の氏名	議 会 事 務 局 長	中 村 大 造		議 会 事 務 局 書 記	渡 辺 健 太	

令和7年玄海町議会定例会3月会議議事日程（第2号）

令和7年3月13日 午前9時開議

日程1 一般質問

令和7年玄海町議会定例会3月会議一般質問通告書

質問者	質問事項	答弁を求める者
4番 小山善照君	1. 町道整備事業について	町長
	2. 玄海町における観光振興について	町長

---

午前9時 開議

○議長（井上正旦君）

おはようございます。ただいまの出席議員は10名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、あらかじめお手元に配付しております議事日程表によって御了承方お願いいたします。

日程1 一般質問

○議長（井上正旦君）

日程1. 一般質問を行います。

質問の通告がっておりますので、発言を許します。4番小山善照君。

○4番（小山善照君）

4番小山です。許可が出ましたので、通告に従って質問いたします。

改めておはようございます。

生活に直結する施設である北部浄化槽の故障については、町民の皆様にご不安、御迷惑をおかけしておるところで、誠に申し訳ございません。一刻も早い回復と原因解明に力を入れておられます。いましばらく御協力いただければと思っているところであります。

そのような中ではありますが、これも生活に直結しております町道の整備が皆さんに喜ん

でいただける状況にあるのか、疑問に感じる部分が見受けられるような気がいたします。もう少し細部を見てほしいとの御意見もよく伺いいたします。

それを踏まえて、町道の状況の把握、整備事業の今後の取組等をどう考えておられるのか、まず伺いいたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

おはようございます。

小山善照議員の、現在の町道の状況はの御質問に対し、答弁申し上げます。

町道の状況について説明させていただきますが、令和6年3月31日現在の道路施設現況調査のものであることを最初にお断りしておきます。

まず最初に、町道は、一級町道、二級町道、その他の町道と、3つの種類がございます。1つ目が、町内の主要部を縦横断し、もしくは循環し、国道及び県道と連絡している道路を一級町道、2つ目が、一級町道と合わせて本町の幹線道路網を構成し、町内の集落及び他市町村に連絡する道路を二級町道、3つ目が、一級町道及び二級町道以外の道路をその他の町道と種類分けされております。

まず、一級町道としましては4路線ございまして、延長1万770.1メートル、舗装率100%、改良率99.58%。改良率とは、道路構造令の規定に適合するように改築された、幅員が4メートル以上ある道路を改良済道路と称し、その総延長の全道路延長に対する比率を出したものを道路改良率といいます。

次に、二級町道は12路線ございまして、延長1万3,239.5メートル、舗装率100%、改良率86.16%となっております。

次に、その他の町道は149路線ございまして、延長11万8,386メートル、舗装率99.74%、改良率76.28%となっております。

最後に、これら町道全体計としまして165路線ございまして、延長14万2,395.6メートル、舗装率99.78%、改良率78.96%となっております。

町道の整備につきましては、既に整備済みである町道座川内切木線と、本年度整備が完了しました町道普恩寺小加倉線の九州電力値賀寮から元村元商店までの区間、及び今議会に令和7年度当初予算に工事費をお願いしておりますが、町道石田線につながる町道清水一号

線、この3路線の整備が完了すれば、町内の幹線道路の整備につきましてはおおむね完了になるのではないかと考えております。

以上です。

○議長（井上正旦君）

小山善照君。

○4番（小山善照君）

ありがとうございます。

確かに、幹線の部分といいますか大きな町道、これは私たちの目から見ても結構きれいになってるよねというところは十分理解します。しかし、私たちがやっぱり町民さんあたりから聞くのは、大きな道路というよりも、それに付随する幹線の部分、この資料でいいますと二級町道になるんでしょうか、そういう部分の使い勝手があまりよろしくないというような話を聞きます。

というのは、通り抜けができないみたいなどころもあって、一番懸念されてあるのは、緊急車両が入らない道があるよと、救急車もしくは消防車、そういうのが入っていきにくい道が随分あるよと。その先にやはり住んである民家、人家があるということなんですけども、そういうところの改良といいますか、そういうのをやっぱりやっていただきたいというような話なんですよね。今、答弁書の中に、先ほど町長は触れられなかったような感じなんですけども、局部改良、視距改良、このあたりのほうが今重要になってきてるのではないかとと思うんですよね。

それと、道を構成するであろうところの道路の法面、これあたりがやっぱり脆弱な場所がようけあるように見えます。今、災害が多い中で、法面が崩れてしまえば道として機能しなくなると。一時的なものなのかもしれませんが、そういうところもやっぱり目を入れていただきたいと思うところなんですよね。

道を道として生かすために、環境の整備も必要なんじゃないかと思うんですけども、その辺を踏まえて、町道改良そのものの考え方というのをどう思っておられるのか、お伺いいたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

まずは、町道改良事業の考え方についての質問に対し、答弁申し上げます。

各地区からの町道改良要望につきましては、区長さんを通じて提出されております要望書により、所管課でございますまちづくり課が取りまとめを行っております。この要望書の提出を踏まえまして、まちづくり課におきましては、その路線全体や要望区間の現地に赴き、区長さんから聞き取りを行うなどして状況確認を行っているところでございます。その確認した結果を、交通量や緊急性、危険性、利便性、経済性等様々な条件と照らし合わせ、事業実施の妥当性を見極めた上で総合的な評価を行い、事業化及び予算化につなげているかを判断しておるところでございます。

令和6年3月末現在では34件の全線改良及び局部改良の要望がございまして、このうち、本年度施工中も含めまして事業着手しているのが8路線ございます。また、中には、同じ地区から複数の要望箇所が出されている場合がございますので、地区の意見を伺いながら優先順位等について判断しているところでございます。しかしながら、全ての事業を実施するためには、予算の範囲内での実施のみならず、まちづくり課職員の業務量の関係で、実施する件数につきましては限られてくるのではと思っております。

今後も、実施可能な範囲内で地元の方々の要望にお応えできるよう努力してまいりたいと思っておりますので、御理解いただきますようよろしくお願いいたします。

以上です。

**○議長（井上正旦君）**

小山善照君。

**○4番（小山善照君）**

区長さんとか地区からの要望、これを聞き取って優先順位をつけてというお話です。

優先順位というのを、どこで優先順位をつけるのか。それは、利用者さんが多い、道幅の絡み、いろんなことがあろうかとは思いますが。しかし、この優先順位っていうのが、住民さんから見りゃあ自分たちのところが一番の優先順位になっていくんじゃないかと思うんです。

そういった中で、背番号をつけていくっていうのは確かに難しい部分もあろうかと思えます。どの町民さんの話も聞いて、何とか応えていきたいって思われるのが、多分、行政の方たちはそう思われるんだろうとは思いますが。しかし、それがそぐうているのか。なかなか要望がかなわないっていうことで、我慢してもらって、不満をためていくような形になってはいないかっていうのが、私たちはふと考えるところですよ。

先ほど申しましたように、緊急車両が入らないとか通り抜けができない、要は行き止まりになってるような場所、こういうのをどう解消していくのかっていうのはやはりしっかり考えていただきたいと思うんですよね。その中での優先順位っていうことも、さっきも申しましたように理解はします。理解はしますけども、この優先順位っていうのが行政のほうの優先順位になってるんじゃないかなって思うところもあるんですよね。

本当に必要とされているような緊急車両等々の問題、先ほど申しましたように、これあたりは優先順位が非常に高いところにあるんじゃないかなと思うんですけども、その辺を踏まえまして、今後、道路改良、町道の改良、これあたりをどう進めていかれるのか、お伺いいたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

今後の町道改良工事の優先順位と、答弁書の中では今後の町道改良工事の予定はということと聞き取りをして作文というか作っておりますので、御質問に対し御答弁申し上げます。

先ほど御答弁申し上げましたが、令和6年3月末現在で34件の全線改良及び局部改良の要望がございまして、事業着手しているのが8路線でございます。このうち、本年度末に1路線が整備完了、来年度末には別の3路線が整備完了する計画となっております。

整備計画について、過去の反省的な背景がございまして、地元の役員さんの話で大丈夫だからということで事業を進めていって、測量設計が出来上がって、いざ着工しようとしたところ、関係地権者の同意を得ることができず交渉が難航し、交渉妥結を得なかったということで、一部の整備を断念せざるを得ないということが起きております。このようなこともあり、現在は、地区の要望と地権者の同意を添付してもらって要望を受け付けさせていただき、整備計画を立てているところでございます。

しかしながら、道路管理者としましては、危険なところとか整備が必要な路線につきましては、地区からの要望だけでなく、管理者自らが整備計画を立て整備していくものが必要だと認識しております。先ほど小山議員が言われましたように、やはり局部改良とか、法面とかそういったところ、それとまた緊急車両が入らない狭い道路とか、そういったところも私たちが勘案しながら計画を立てていかななくてはならないと思っております。

今後の町道改良工事の計画予定につきましては、先ほどの答弁と重複いたしますが、交通

量や緊急性、危険性、利便性、経済性等様々な条件と照らし合わせ、事業実施の妥当性を見極めた上で事業化及び予算化させていただきたいと思っておりますが、先ほどの一部整備を断念している路線についても考慮しながら、今後の取組方につきましては検討しているところでございます。繰り返しにはなりますが、今後も地元の方々の要望にお応えできますよう、実施可能な範囲で努力してまいりたいと考えておりますので、御理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（井上正旦君）

小山善照君。

○4番（小山善照君）

町長のお答えとしては、多分そういうふうにはしかおっしゃりようがないんだろうなとは思っています。

以前も申しましたように、道は町の血管だと思っております。血管が目詰まりすると、やはり何らかの障害、体でいうなら病気等が出てくる可能性があります。細部の道でもしっかり見ていただいて、先ほど申されます緊急性、危険性、利便性、経済性、ちょうど今希望が上がっている町道の話でいけば、経済性っていうのは多分あまり見えてこないんだろうなと思います。しかし、緊急性、危険性、利便性っていうのはきっと求められておられるんだろうなと思います。

まず、危険性というのが、先ほど申しましたような緊急車両の通行が難しいっていうようなところになるんだろうなと思います。緊急性っていうのも、緊急車両が入るんですから、そういうことなんだろうなと私は思うんですね。その辺を考えたときに、先ほど申されます優先順位っていうのが必然的に上がってくるんじゃないかと思うんですね。

交通量を優先順位にするのか、経済性を優先順位にするのか、これは考え方はそれぞれあるかと思いますが、これは町民さんが使われる町道ですから、町民さんが緊急性があるよ、命に関わる道路なんだよっていうことになれば、県道、国道だったらそりゃいろいろ経済性、生活道路の考え方というのも変わってくるのかもしれませんが、こと町道に関して言えば、町民さんの安心・安全、そういうこと、緊急性を考えれば、これあたりが非常に優先順位が高くなるんじゃないかなと思うところです。その辺を検討課題の一番上に置いていただいて道の整備を考えていただくということで提案しておきたいと思っております。

それでは、次へ行きます。

玄海町の——ちょっと話が急にぶれるような話なんですけども——観光振興、これは町長もずっと以前から観光振興に力を入れたいというようなことはおっしゃっておられますが、町の観光地、誘客の現状についてお尋ねいたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

小山善照議員の、町の観光地、誘客の現状はの御質問に対し、御答弁申し上げます。

本町ではこれまで、自然豊かな景観を生かした三島公園や浜野浦の棚田展望台などの公園の整備を行ってまいりました。佐賀県観光客動態調査によりますと、令和4年の調査によりますが、約22万人の観光客が玄海町に来訪されております。また、玄海海上温泉パレアを整備し、町民福祉の向上と観光の振興を図るため、指定管理者制度を活用し、運営を行っておりますのでございます。

玄海町次世代エネルギーパークあすびあは、楽しみながらエネルギーを学べる施設として、隣接する玄海エネルギーパークと連携を図りながら、小学校低学年までの子供連れの家族を中心に、令和5年度においては約8万5,000人と、年間、数多くの方が来館されております。令和6年4月21日には、平成25年7月の開館からの累計で来館者数が100万人に到達したところでございます。

これらの施設などを活用し、佐賀県内をはじめ全国各地からの観光客を呼び込む取組を行っている状況でございます。

一方で、現状におきましては、一組の観光客が町内で終日滞在するには十分でない状況であることも認識しております。そこで、さらなる集客を促進するため、東松浦半島一つを一つの観光エリアと捉え、この一帯で楽しく過ごしていただけるよう、観光客の方々の周遊を促す取組を行っております。

具体的には、玄海町みんなの地域商社と連携をして、上場地区各所の施設等を一冊の冊子で紹介する「UWABA BOOK」を発行したり、唐津市とも連携を取りながら、玄海・唐津地区を周遊するサイクルロードの旅行商品化を検討するなど、各スポットの特性を生かした観光によって、お金の落ちる仕組みも考案しながら進めておるところでございます。これらの取組を通して、玄海町を訪れる観光客の方々に高い満足度を提供できることを目指しております。

観光地としての魅力向上と誘客促進に向けたこれらの施策は、地域経済の活性化による地域住民の暮らしの向上にも寄与するものであり、今後も継続的な取組を行ってまいりたいと考えております。

○議長（井上正旦君）

小山善照君。

○4番（小山善照君）

なかなか大きな観光施設がある町ではないので、自然を活用して観光地をつくっていくっていう感覚じゃないと、なかなか形になっていかないんじゃないかなと思います。

先ほどちょっと出たようですけども、パレア等あたりしか観光施設的なものが玄海町にはないですね。あとは棚田の景色を楽しんでいただくというような、そういうところしかまず私の頭の中には浮かんでこない。あすびあは当然、あれはもう学びの場としても、観光施設の一部ではあるんでしょうけども、パレアあたりの周辺をもう少し開発して、あそこにまず人を集めるっていうような考え方もあるんじゃないかなと思うんですよね。そこにどういうルートでお客さんを来ていただくのかっていうようなことを考えるのが一番、物があるところに対してどういう形で整備していったってそこに呼び込むのか、もしくは新しいそういう施設的なものをつくっていかれるようなこともあるのか、その辺もしっかり考えていただきたいなと思うところなんですけども。

今、有浦川の整備の話も出ております。これあたりが多分、時間的には何十年、10年以上かかるような事業にはなっておりますけども、これあたりともどういうふうに観光を絡めていったって、いい形にしていくのか、こういうの具体的なものがなかなか提案として見えてこない部分があるんですよね。都度都度の説明の中では、こういう整備をしたい、ああいう整備をしたいっていうような話は聞きはしますけども、それがいつになるのか、これがどうほかの観光施設、パレア、あすびああたりに絡んでいけるのか、その辺の具体的なものがなかなか見えてこないようなところもあります。

そうなってくると、町全体が観光地っていうような考え方、町全体が公園的な、玄海町の中に公園があるんじゃないかと、玄海町そのものが公園なんだっていうような考え方もできてるんじゃないのかなと思うんですよね。田舎は田舎ぶりを生かした観光地のほうがなかなか面白いんじゃないかなと思うんですよね。

その辺を踏まえて、現在町が進めておられる観光施策の計画と進捗状況、これあたりほど

うなっておるか、まずお伺いたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

現在町が進めている観光施策の計画と進捗状況はという御質問に対しまして御答弁申し上げます。

先ほど御答弁申し上げた観光分野における現状におきまして、観光地としての魅力向上とさらなる地域資源の活用を目指し、現在行っている施策の計画と進捗状況について御答弁申し上げます。

取組の例の1つ目としましては、経済産業省の事業でありますいわゆる地域の力プロジェクトを活用しまして、周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業を行っております。こちらは、先ほど御答弁申し上げた東松浦半島一帯周遊を促し、観光地としての魅力の向上を目指して行っているものでございます。

考え方としまして、行政主導から民間主導の取組への移行を見据えて事業を進めております。持続可能な観光事業を構築し、自らで収益を確保して、地域の事業者が観光関連の事業をなりわいとして持続できる形が最も望ましいものであると考えております。観光事業ですが、やはり観光事業に関連してる事業者さんが収益がないと、そういった一体感、それとまた町の魅力、そしてまた観光事業者さんのやる気もうまくいかないのではないかと考えておるところでございます。

玄海町みんなの地域商社を核として、九州経済産業局や佐賀県などの国、県の機関の支援を受けながら、玄海町、唐津市をはじめとする行政、上場地域の民間事業者、唐津上場商工会や唐津観光協会などの関連団体が一つの方向に向かって各取組を行うことが必要であると考えております。しかしながら、現時点におきまして、この形の実現には、中・長期的な視点を持って行政の取組を継続していく必要があると考えております。

次に、浜野浦の棚田については、駐車場の駐車可能台数を増やして観光客の受入れ環境を向上させるとともに、農繁期でもあるゴールデンウィーク期間を中心とした路上駐車解消による農作業環境の改善を目指し、展望台の駐車場の拡充に向けての事業を進めております。駐車場台数、予定として今計画してるのは、74台駐車できるような駐車場を計画しておるところでございます。現在は、展望台駐車場を中心とする公園としての拡充工事を施工する

ため、用地取得に向けた準備を行っている段階で、令和8年度に工事を施工したいと考えております。

また、浜野浦の棚田の耕作者や保全団体の活動に対する補助金を交付することによって、耕作や保全活動を継続していただけるよう支援しておるところでございます。しかし、浜野浦の棚田の耕作者や保全団体の構成員の高齢化により、今後の維持管理が難しくなることが予想されます。これに対応するため、次世代の担い手育成にも力を入れていかなければならないと考えております。現在も、棚田保全を任務とした地域おこし協力隊の任用を行い、棚田の振興や保全団体の活動の活性化を図ってまいりましたが、これらの施策を進めるに当たっては、取り巻く状況や必要性を見極めながら地元との協議を重ねて、引き続き、町の観光施策の充実に努めてまいります。

棚田にも、年間、私もライブカメラで、役場に来て時間があるときは見ております。前日の1時間ごとのストップ写真がありますので、それを見て、意外と、そのときにおる人しか写真は載りませんが、やはり天気がいいときにはいろいろな人が来られてるなというのを感じてるところでございます。もちろん棚田保全ができてないと、やはり魅力ある観光地となりませんので、そういった取組を今後もずっとやっていきたいと思っております。

また、有浦川河口部周辺の仮屋湾における堆積土の増加により、漁業や環境への影響が懸念されているため、その堆積土のしゅんせつ後の活用方法として、隣接する地域の埋立てにより、観光誘客や観光消費額の向上等に寄与する拠点づくりに生かせないか、検討を進めております。まずは、埋立地をパレアなどの駐車場として、パレアだけでなく町民会館とかグラウンドでいろいろなイベントがあるときの駐車場が足りませんので、そういった形としてまずは利用できるよう、令和7年度において仮屋地区地域拠点整備事業として対象地の測量を行い、埋立地の護岸を設計するための予算を本議会にお諮りしてるところでございます。

議員が申されますように、パレア、あすぴあ、こういった、玄海町にとっては大事な観光地であります。そういったところを生かしながら、また基本的に私も町長になって思ったのは、商工会青年部等とかでもいろいろなイベントをしてきましたけれど、なかなか観光客がそんなに簡単に増えるものではありません。そしてまた、点で玄海町だけ頑張っても、最初の答弁で申しましたけど、玄海町だけ頑張っても、やはりこの東松浦半島で、たてがみからずっと、最終的には肥前町のほうまで、こういったルートですね、逆でもいいですけど、そういったところが相まって、糸島半島みたいに地域の人が頑張っていったら、全体がまたそこ

に合わせていろんな人が来て観光業を始めるとか、そういった形にこの東松浦半島がなったらいいなと考えておりますし、糸島市の月形市長には、あちらは元伊都国、そしてこちらは末盧国なので、糸島半島とうちがけんかするわけじゃないけれど、お互いそういった歴史的なロマンも含めて、伊都国と末盧国、そういった太古のロマンを含めた観光事業を一緒に何か取り組むといいですねという、そんなお話はしたことはあります。

今後、そういった形に、どうなるか分かりませんが、できるだけ町としてできること、それとまた東松浦半島におきましては経産局にお願いして、いろんなルートの開発とか、今検査しておりますので、それが最終的にいい形になればありがたいなと考えてるところでございます。

**○議長（井上正旦君）**

小山善照君。

**○4番（小山善照君）**

確かに、一朝一夕に進む事業ではないというのは十分理解しております。だからこそ日々の積み重ねが大事になってくるんじゃないかと思えます。

先ほど町長もおっしゃるように、これは業者さんも含めて住民さんも含めて協力をしていただかんと形にはなっていないのかなっていうのも十分感じますけども、しかしその協力をしてもらう形ですよ。こういうことをやるんでこういう協力をしてくださいというようなものになってくると、やはり先ほど町長が申されましたような観光のルートづくり云々の話も、もう少し具体的な構想というのがあれば、協力していただく方たちも頭の中で想像がしやすいんじゃないかなと思うんですよね。形的なものをつくっていくんですので、その形がどういう形なのかっていうのはやはりお示ししていただかないと、てんでてんで勝手に、自分はこう想像した、こっちはああ想像したっていうことだったら、なかなか共通点といいますか、そぐうていかない部分も出てくるんじゃないかなと思うんですよね。

棚田の担い手不足の話も先ほど出ましたけども、私たちが聞いている分でも、もう無理よと、自分たちの後はいないよというような話もよう伺います。そうなってくると、じゃああそこを誰が管理するのかっていうような話になってきますよね。後継者の育成っていう話になってきておりますけども、あれが農地として活用できるのかという点と甚だ疑問になってきます。であるんなら、やはり景観として捉えて、あれは町の観光施設の一つなんだという考え方をすれば、後継者不足というよりも、どういう業者さんといいますか、どういう方たち

にあれを維持管理してもらおうのかって、その方向で考えられたほうが答えは出やすいんじゃないかなと思うんですよね。景観っていうことであれば、もう少し見た目がいいような整備もしていかなと、右左雑木で生い茂っているというようなことでいいのかなって思うんですよね。

棚田そのものは、一生懸命皆さんがイルミネーションを作ってみたり、その時期になれば無理してでも田植をしていただいたり、子供たちが体験農業ということで、地域おこし協力隊、地域商社あたりと組んでいろんなことはなさっておりますけども、これがよそにまで伝わっているのかなっていうところがあるんですよね。町民さん、住民さん、その辺周辺の人のイベントになってはいないかなっていうようなところもあるんですよね。ほかの地区で話を聞いたときに、棚田は、逆に言うなら、うちにもあるよ、段々畑んことやろっていうような取り方をされてる方も、よそには結構おられるんですよね。

であるんなら、どう差別化をするのか。うちの棚田は棚田だよって、段々畑じゃないよっていうようなことの整備というのは非常に大事になってくると思うんですけども、これを造り替えるぐらいの気合がないと、新しい観光の取組っていうことにはなっていないんじゃないかなと思うんです。その辺をしっかりと計画的に、時間はかかってもやっていっていただきたいと思うところであります。

**○議長（井上正旦君）**

脇山町長。

**○町長（脇山伸太郎君）**

先ほど小山議員がるる申されました観光振興について、今後、町の将来についての展望等についても答弁させていただきます。

観光振興につきましては、中・長期的な観点から各種取組を進めてまいります。

その第1の柱として、町が持つ自然や文化などの観光資源の維持と保全を重視します。これらの資源が失われれば、観光の根幹をなす地域の魅力も失われますし、観光を通じた地域の活性化も望めないと考えております。それは先ほど小山議員も申されましたように、浜野浦の棚田の保全なども大事な問題だと思っております。

また、2つ目といたしまして、観光事業を通じて地域関係者の収益を向上させることも重要であります。行政だけでなく、地域住民や事業者も観光振興に関与し、それが恒常的な所得につながることで、地域全体が観光振興に積極的に取り組み、観光を持続可能な産業とし

て確立させることが重要であると考えております。そういったところが、糸島の観光なんか  
がうまくいってるのかなっていうのを感じております。

そして3つ目は、地域に合った観光事業の推進です。私どもが自らの地域の特性を把握  
し、この地域に魅力を感じていただける方はどういった年齢層なのか、どういった経済的状  
況の方々なのか、一方的な観光開発ではなく、ターゲットとする観光客の姿をイメージし  
て、それらの方々に魅力が伝わるような効率的かつ効果的なPRなどを行い、地域が持つ特  
性を生かした観光施策を展開することが大切だと考えております。

浜野浦棚田でも、地域おこし協力隊が頑張ってくださいます。先ほど申されましたよう  
に、やはり後継者の方々が少なくなっている中に、棚田保全も難しくなっておりますので、今  
後は農業関係の法人化なども考えて、農業法人がよそから、玄海町の場合、来るような状況  
ではありませんので、あえてこちらのほうでそういった形をつくって、棚田保全とか、あと  
耕作放棄地、そういったとこの対応もできるといいかなと思っております。

また、地域商社においては、棚田保全に関して、先ほど申されました田植や稲刈りとか  
いろんなイベントのときにはツイッター、今はXですけど、それとかフェイスブック等で、  
SNSをうまく活用して流しておりますが、それが全ての人に伝わるわけではありません。  
そしてまた、最初に申しました上場に関する本とかも、冊子とかも出しておりますので、で  
きるだけ誘客につながるような対応をしていきたいと思っております。

地元の伝統や文化が宿る地域性を最大限に生かした観光振興により、玄海町の特性が光る  
観光地となるよう施策を進めてまいります。

町を取組以外にも、先般ありましたエネIKUの開催など、民間事業者による取組も行わ  
れております。それから、本日、佐賀新聞にちょうど載ってございましたけど、玄海ishさ  
んと、あとeスポーツ大会、これらも、私も商工会青年部のときに、どうしたら町が活性化  
するかということで、花火大会とか産業文化祭とかいろんな取組、仮屋湾では10分の1イカ  
ダマラソンなんか大会もして、実際イベントをすると本当に大変です。そしてまた、人間も  
いないとされませんので、そういった経験もしながら、そして町長になってイベント補助金  
を、年10回ぐらい、30万円の補助金をつくりましたけど、これは町内で毎月1回どこかで誰  
かが何かをしているということで、町のPRになるかと思って、そういったイベント補助金  
も組ませてもらいました。以前から、それからまちづくり活性化促進事業もあります。

今回、玄海ishさんがイベント補助金を使って、あすぴあ等でイチゴパフェとかそうい

ったイベントをされておりますし、恵方巻きのときには町民会館を利用してそういったイベントもされております。なかなかそういった宣伝が、今回佐賀新聞に載せてもらったのは本当にありがたいと思っておりますし、もう少し皆さんにこういったことを知ってもらうことが誘客につながってくるかと思っております。

そしてまた、今回、ローカル5Gを導入して、それを基にeスポーツ大会が開催されることになりました。これは民間のモーガンフィールドが開催してくれますが、そういったところをつなげながら、今度の土曜日に開催される予定です。宣伝効果でどのくらいの方が来られるか分かりませんが、できるだけそういったところも継続的にやりながら、継続は力なりで、eスポーツの発展、それから小山議員も関与されております唐津青翔高校の、今後、令和8年度からeスポーツやデジタルアートの学科もできますので、そういった取組に対しても私たちは協力しながら、県外から留学するような子供たちがたくさん、青翔高校も賑わう、玄海町も賑わう、そしてそういった方たちが就職する場も今後できていけば本当にいいことかと思っております。

ちょっと話が違うほうになりましたが、これらを通じて持続可能な観光開発と地域活性化を目指したいと思っております。これらの視点を忘れず、地域や民間と協力しながら今後とも観光振興を進めてまいりますので、どうか御理解のほどよろしく申し上げます。

以上です。

**○議長（井上正旦君）**

小山善照君。

**○4番（小山善照君）**

先ほどはすいませんでした。ちょっとはしょっておりました。申し訳ないです。

先ほど町長もおっしゃるように、いろんな施策を打ってあるっていうのは聞いておりますし、分かっております。しかし、なかなかやっぱり結果が急に表れる部分じゃないので、これはもう途中でやめんで持続、10年でも20年でも続けていっていただきたいと思うんですよね。継続は力っていうことにもなります。

先ほどおっしゃるように、新しい形、eスポーツにこだわらなくてもいいとは思いますが、やっぱりそういうのが一番目につくといいですか見やすいといいですか、具体的な形で見える新しい観光産業っていうことに、それを昇華していくためには町の取組あたりが非常に重要になってくるんじゃないかなと思うところです。

あと、集客の面でいえば、宿泊施設等の整備っていうのも当然考えていかにかいかなのじゃないかなって思うんです。別にホテルを建てろっていう話じゃないんですけども、泊まれる場所が今玄海町にはないんで、それはやはり造っておくべきじゃないかなと思います。どういう形の宿泊施設にするのかはいろいろ検討課題だとは思うんですよね。旅館業組合さんあたりとも十分協力をしていただいて、町にお金が落ちるだけじゃなく、旅館業組合さんのほうにもお金が落ちるような仕組み、そういう施設っていうのはやっぱり十分考えていかんと、いろいろ手を打っても、通過するだけでは、日帰りしてもらいよりもやはり1泊2泊っていうような、そういう取組、イベントっていうのも打っていただきたい。しかし、泊まるところがなかったら打ちにくいということであるんなら、そういうところも含めて、やはりイベント、施設、そういうのを考えていっていただきたいと思うところであります。

私も、観光整備は人流を呼ぶ町の活性化の一因になる施策だと考えます。いろいろな手を考えておられるようですが、結果として表れにくい部分も多くあるのも否めません。他市との関わりや、先ほど申されていた上場地区の観光ルート完成も、具体的な形がなかなか見えない気がいたします。時間がかかる事業であるのは理解しますが、進んでいるようにも感じられないのも事実です。町の新たな特色を生み出す観光開発とはどのようなものなのか、常に議論していきたいと思えます。先ほど申しましたように、町道の整備や観光開発は時間がかかる事業だと思いますが、町の将来を思うとき、スピード感も必要なのではないかと提案しておきます。

最後になりますが、岩手県の大船渡市の林野火災の一応の収束が発表されました。ニュース等で言われるように大きな被害になっているのを見ると、一刻も早い回復、復興を願うばかりです。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます、私の質問を終わります。

#### ○議長（井上正旦君）

以上で小山善照君の一般質問を終わります。

以上をもって本日の議事日程は全部終了いたしました。よって、本日の会議はこれにて散会いたします。

午前9時48分 散会